



果樹特報 No.5

令和3年 6/17号
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

今回の内容：6月下旬定期 炭そ病特散

- ◆ 梅雨は炭そ病・輪紋病の重要防除期です。昨年はこの期間に感染が拡大し、果実被害が発生しました。引き続き、一定の散布間隔で進めてください。

共通①：【展着剤】ササラを通年使用中です。薬液が葉裏によく広がり、散布後の乾きも早くなる効果あり。

共通②：【輪紋病予防】IC ボルドー412の33倍を6月最終週に特別散布する。ただし、早生種には散布しない。

6月下旬～7月上旬（定期） *目安：前回から15日後		【6/下～7/上 定期】
散布時期：6月27日～7月5日		散布日： 月 日
散布薬剤：水 100ℓ		散布量： ℓ
展着剤（ササラ）	50ml 【代替】ハイテンパワー10,000倍	
⑧ バイスロイドEW	50ml（7日前、4回） *ご購入の際は、印鑑をご持参下さい	
ラビライト水和剤	200g（30日前、1回） 【枝腐らん予防効果あり】	
散布量：10a当り 600ℓ		
対象病虫害：腐らん病、炭そ病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病、黒星病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ		
注意事項		
① <u>【ハダニ類 対策】</u> マイトコーネフロアブル1,000倍（前日、1回）を加用する。		

炭そ病特別散布 *目安：6月下旬～7月上旬定期散布から1週間後		【7月 特散】
散布時期：7月4～11日		散布日：7月 日
散布薬剤：水 100ℓ		散布量： ℓ
展着剤（ササラ）	50ml 【代替】ハイテンパワー10,000倍	
オーソサイド水和剤80	100g（前日、6回）	
散布量：10a当り 600ℓ		【特別散布】
対象病虫害：炭そ病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病		

【結実不足園の新梢管理ポイント】 【ハダニ類の防除、殺ダニ剤の選択】 は次ページをお読みください。

●新梢管理のポイント

【着果量が確保されている園地】

通常の新梢管理を行う。樹勢が弱い樹では、樹勢回復を図るようにする。

【着果量が少ない園地】

まず樹体生育をよく観察し、「新梢発生が多く、発生した新梢伸長も旺盛な場合」や「新梢が込み合っていて薬剤が通らない、光がかなり遮られる場合」は新梢管理を行う。

- ①新梢管理は6月中に行う。7～8月は花芽分化・形成期に当たるため、この時期に葉を多く落とすと停止した芽（頂芽）が再伸長し、花芽分化が劣る。
- ②普通樹の骨格枝背面の徒長枝となりそうな新梢、長く伸長している新梢や冬季に切っておくべき枝を中心に切除する。骨格枝背面は全て切除すると骨格枝の日焼けを起こすため、適度に残すようにする。新梢を切りすぎないように注意する。
- ③短い新梢（20cm 以下のような）は切らない。新梢数が減りすぎると残った新梢が伸びる。

● ハダニ類の防除、殺ダニ剤の選択について

○：効果ある △：効果やや劣る ×：効果ない

薬剤名	倍率	使用基準	使用回数	IRACコード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
ピラニカ水和剤	2000	21 日前	1 回	21	○	×	○	○	○
カネマイトフロアブル	1000	7 日前	1 回	20	○	○	○	○	○
マイトコーネフロアブル	1000	前日	1 回	20	○	○	△	○	○
オマイト水和剤	750	3 日前	1 回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1 回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1 回	23	○	○	○	○	△
スターマイトフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2 回	25	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○

① 殺ダニ剤ローテーションについて（予定）

- ◆ 7月中旬（7/12～20 頃）：ダニゲッターF2,000 倍（中期的抑制効果あり・残効 14 日程度）
- ◆ 8月上旬（7/27～8/4 頃）：コロマイト乳剤 1,000 倍（速効的・成虫に効果高い・残効短い）⇒散布ムラがないように
- ◆ 8月中旬（8/11～19 頃）：オマイト水和剤 750 倍（成虫に効果あり・残効やや短い）⇒ダニ退治の締め

② ダニサラバ・スターマイト・ダニコングは同一薬剤系統である。抵抗性回避のため、いずれかを年 1 回のみ使用とする。

③ ダニゲッター（ダニサラバ）は成虫に対してやや遅効的効果を示す。散布 7 日後以降に効果が発現する。

	リンゴハダニ	ナミハダニ
越冬	リンゴ樹上の芽基部や皮のくぼみに産まれた卵で越冬	雌成虫が粗皮下や雑草等で越冬 越冬成虫はあざやかな朱色
春先	4月中旬から孵化を始め、開花直前には終了し、夏卵を産む	3月に入ると越冬場所から移動するが、りんご樹上では春先に多発することはない。
発生消長	6月中下旬から増加し、ピークは7月中旬～8月上旬で、その後ナミハダニが増加すると一時的に密度が低下する。	発生ピークは8月中下旬頃であるが、早い時期は7月下旬、遅い時期は10月になる場合があり変動は大きい。

果樹特報 No6 発行予定：7/2

- ◆ 7月中旬（7/12-20）

【重要①】果樹特報 No1～5 は JA 中野市ホームページに公開中です。ホームページ内「営農情報」を選択し、8 桁の組合員コードを入力してください。簡単に閲覧できます。スマートフォンからもアクセス可能です。ご利用ください。

【重要②】週 1 回の果樹園芸メールでも随時特報配信しています。メール配信希望の場合は営農センター（23-3933）までお問合せください。